

上田市教育委員会6月定例会会議録

1 日 時

令和6年6月26日（水） 午後3時00分から午後3時45分まで

2 場 所

上田市役所 202・203会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	酒 井 秀 樹
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	大久保 恵子
委 員	木 口 博 文
委 員	萱 津 公 子

○ 説 明 員

小野沢教育次長、龍野教育参事、町田教育総務課長、宮原教育施設整備室長、長田学校教育課長、上原生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、久保田人権同和教育政策幹、小須田学校保健給食課長、清水第一学校給食センター所長、田中中央公民館長、木嶋西部公民館長、金田上田図書館長、小林丸子地域教育事務所長、池田真田地域教育事務所長、若林武石地域教育事務所長

1 あいさつ

それではこれより6月の教育委員会定例会を始める。

お手元の方に通信を3枚ほどお配りした。学校訪問に行った内容となっている。それぞれの学校で校長を中心にとっても工夫をしている。今回、3つの学校に行ってきたが、いずれも学校の風土というか、空気をつくっているところに様々な工夫がされていた。

第三中学校、第六中学校、川辺小学校のいずれも先生方が子ども達に寄り添ったり、子ども達の次の手を待っていたり、それを校長の思いが先生方に伝わって、それが子ども達の安心した空気に繋がっているということを感じた。

訪問では、委員の皆様や学校教育課の指導主事にお話をいただいている。

その中の一端でも皆で共有できればという思いがあり、どれぐらい続くかわからないが、時間のあるときにお読みいただければありがたいと思う。

それでは、協議事項に入りたい。

2 協議事項

(1) 県教育委員会及び市町村教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の 取り交わしについて（学校教育課）

○資料1により長田学校教育課長説明

例年実施しているが、県教育委員会と上田市教育委員会に先生方、校長先生教頭先生、一般の教職員の人事等に関する了解事項の取り交わしをお願いしたいというものである。

内容については、裏面御覧いただきたい。いろいろ記載しているが、「1 教職員の任免その他の進退について」ということで、(1)として校長、(3)で教頭、(4)で一般教職員の任免等についての了解事項があり、次に「2 令和7年度教職員人事異動の基本方針について」ということで、県教育委員会は市町村教育委員会の意見を尊重し、基本方針を確立し、その実現を期するものということである。具体的な手順については、別紙「覚書」ということで、次のページに記載している。

これらを長野県教育委員会と上田市教育委員会で相互に取り交わしを行い、先生方の人事を決めていくというものである。今回、御了承いただければ、最終ページの県義務教育課から発出する連絡調整についてということ、県教育委員会と上田市教育委員会が相互にこの了解事項について確認をしたということ、押印、保存し、

令和7年度の人事異動方針等の任命等に進んでいくというものである。

例年お願いしている内容であるが、今回お認めいただければ、こちらを県教育委員会に提出をし、今後の連絡調整を進めていきたいというものである。

酒井教育長

ただいまの件について、御意見等があればお出しいただきたい。

大久保委員

今年、特に変わった部分あるか。

長田学校教育課長

特に大きな変更点はない。

酒井教育長

そのほか御意見なければ、この内容で取り交わしを行うことについて御承認いただけるか。

○全員了承

(2) 上田市指定文化財候補案件の諮問について（生涯学習・文化財課）

○資料2により上原生涯学習文化財課長説明

この度、所有者から市指定の申し出があった文化財について、市民の文化的向上に資する重要な文化財としての価値を有し、保存活用のための必要な措置を講じる必要があることから、上田市文化財保護条例第4条第1項の規定について、指定有形文化財とするため、文化財保護審議会に諮問したいというものである。

今回の文化財候補案件は、建造物1件である。名称は記載の通り、誉田足玉神社本殿。員数については1棟で、所在地は真田町傍陽、本建造物については、(8) 保存方法に記載してあるが、4つの自治会で管理しているものであり、今回は代表して大庭自治会の責任総代から申し出があったものである。

形状、または、構造の特徴としては、神社本殿は、一間社流造り、こけら葺きの社殿で柱や長押に地紋彫りが施こされ、波、菊、麒麟などの彫刻をつけるなど、江戸後期の伝統的な手法が見られる中で、柱の表面には縦に並べた溝をつけ、側壁や開き障

子には八幡社にふさわしい武勇伝を題材とした大きな彫刻をつけるなど、幕末期の優勢する様式を先取りしたような絵も見られる。

また、神社には多数の棟札が保存されており、本殿の様式から文政11年1828年頃の棟札が現存の本殿の造影を示すものではないかと考えている。

裏面をお願いしたい。

今後、開催予定の文化財保護審議会に諮問し、審議会内の担当委員による調査をお願いし、その調査結果を基に文化財指定に係る審議をしてみたい。年内にはその審議結果による答申をいただくことを想定していて、その答申内容により、文化財政に向けて準備をしてみたい。

酒井教育長

ただいまの件について、教育委員の皆様から御意見等あるか。

安達教育長職務代理者

諮問し、審議会で決定となったとき、今は入軽井沢からの4自治会で修繕管理を行っているが、指定を受けたときにどんなところが変わってくるのか。

上原生涯学習・文化財課長

指定文化財となることで、やはり文化的な価値付けがなされる。その文化財としての位置付けが明確になってくるということと、あと、指定を受けることで、この補助要綱にのっとった補助率に基づく補修等の助成ができるということになる。

この辺が今後とも保存活用していく意味での行政からの支援とさせていただく形になる。

安達委員

価値あるものだというふうに認めていただくことと、これから修理保存していくための補助が出るということと承知した。

木口委員

今の安達委員の質問に付随してだが、管理自体は今後もこの4自治会の方をお願いする形で、修理や修繕の依頼が出てきたときに、上田市としていろいろやっていくという、手順になるのか。

上原生涯学習文化財課長

こちらからは指定文化財になることで、保存方法や活用方法についてはいろいろ助言をさせていただくが、あくまで修理管理方法については、所有者の意向に添う形になる。

補助金については、財政的な予算化が必要になってくるので、速やかにできる、できない、の問題はあるが、申し出に基づいてやっていくという形である。

大久保委員

今回の申請に当たって4自治会の総意みたいなものは取れているのかということと、社で、私は地区が違うのでよくわからないが、これに関してのお祭りみたいな地元のイベントみたいなものがあるのか、もしわかれば教えていただきたい。

また、こういった文化財の候補案件を申請・諮問というようなことを行う場合に、上田市自体はそういうものの掘り起こしみたいなものをやっているのかどうなのか教えて欲しい。

上原生涯学習・文化財課長

1つ目の4自治会の件だが、3月の定例会で指定文化財の諮問の関係を議題として出しているが、やはり4自治会となるとそれぞれの総代の中でこの指定をかけることについて了承を得なければいけないということで、今回、1件だけ遅れたタイミングでお願いしている。あくまで4自治会で了承が得られたということの中で、代表として大庭自治会からいただいているということである。

イベントについては、お祭りの関係なのだが、ちょっとその辺は把握していないのでまた調べて報告したい。

木嶋西部公民館長

私、たまたま出身が真田なので、この自治会に所属しているわけではないが、春と秋に多分お祭りの旗が立っているのでお祭り自体はやっているかと思う。

上原生涯学習文化財課長

次に、3点目の文化財の掘り起こしの件だが、やはり文化財いろんなものがあるので、情報が寄せられたもので、こちらの学芸員が見た中で調査をし、ある程度見込みがあるという言い方は変だが、それについては下調査をしながら出していく形になる。

ただ、行政として主体的調査という意味では、今、仏像の詳細調査をしており、以前に調査をかけた千何百体の仏像から指定になりうるような貴重な仏像に関しては、約140件から150件抽出して、今詳細調査を3年間、国の補助を受けながらやっている。

それが結果として、前回、諮問した仏像の方に繋がってきているという形である。幅広い文化遺産であるので、そこはまた順次やっていく形である。

大久保委員

古いものが風化していく時間は、とても早いと思うので、もう気がついたらものすごく風化していて、保存維持管理できないような状態になっていたということができないように、すごく大変なことだと思える限り続けていただきたい。

酒井教育長

そのほかないようであれば、この内容で諮問をすることとしてよろしいか。

○全員了承

3 報告事項

(1) 上田城跡発掘調査の進捗状況について(生涯学習文化財課)

○資料3により和根崎上田城跡整備担当政策幹説明

上田城跡発掘調査については、令和4年度から継続して武者溜り、本丸の櫓周辺において実施しているが、今年度の発掘調査の進捗状況を説明する。

1ページ目の第1図を御覧ください。江戸時代の絵図のところに今回の発掘調査のエリアを示している。まず①のところが旧市民会館の解体に伴う武者溜り整備事業、これの事前調査として現在発掘調査を進めているエリアがここになる。絵図の一番上のところの㊦と入っているあたりが、概ねテニスコートと北観光駐車場の境目辺りだというふうに御理解いただきたい。

それから②は、本丸の上の段、団子山というふうによく言われる場所であるが、その上の段にあった櫓3棟のうち、今年度に関しては既に実施済みの1棟を除く2棟の調査を予定している。

2番のところ、武者溜りの発掘調査の進捗状況について説明する。

今回の絵図のところで①とした範囲の発掘調査については、先ほども申し上げた通

り、旧市民会館の解体、その後の武者溜りの整備ということを見越して、発掘調査をしている。

大きな目的としては、こちらのところに㉞㉟㊱㊲ということでも丸印で示しているが、特に㉞のところの三十間堀というお堀、それから㉟のところにある冠塀台石垣、この根石、それから㊱二の丸橋を入ったところのLの字に折れ曲がる鍵の手になっている石垣の根石、この3つを各調査で見つけ出すことによって、今後の整備計画に反映させていきたいということで取り組んでいる。

調査期間については、来年の1月末を最終として予定をしている。

資料の裏面を御覧ください。

今回の調査の内容については、ここに㉞から㊲ということでも示した通りである。今、説明の中でも触れた通り、それぞれの堀だとか、石垣の根石が現状としてどの程度残っているのかというところを主に確認をしているが、特にこの第2図の水色の印をしたところ、あと㉞の三十間堀というふうに書いてあるところのすぐ下のところに黄色く線を引いてあるところがあるが、三十間堀については、これまでの発掘調査で北側と西側、東側の範囲はおおよそ掴んでいる。今年度この図のところでも黄色く示したこの南側のラインを探し出すことによって、㊱としている南側に隣接している石垣の基礎も含めて確認をして、武者溜りの北側を固める防御施設、これを現地での残存状況等確認をしながらどの程度の再現ができるのかというところを、今後、整備基本計画の中でしっかりと示していきながら、文化庁と交渉するための材料を今作っている。

三十間堀についてはそのような状況の中で、今後、工事の直前になるかと思うが、この堀、深さが約5.4mあったというふうに江戸時代の絵図に記されているので、その深さも含めて今年度中にデータの整備をして整備計画に落とし込んでいきたいというふうに考えている。

その他、㉟㊱の石垣については、特に㉟の冠塀台石垣になるが、これについては、資料もう1枚めくっていただき、上の方に幕末のちょうど武者溜りから本丸の櫓の辺りまでの姿を再現したジオラマの絵を載せてあるが、この中で丸く示してあるところが冠塀台石垣というものになる。二の丸橋の方から入ってきた敵が、まっすぐ本丸の櫓門のところまで辿り着けないようにしっかりと折り曲げていきながら敵を誘導していくわけだが、その最終的な障壁というか、支障となる石垣として設けられているもの。この石垣については、今、発掘調査を進めているところであるが、この発掘作業の写真の隣のところに石垣の断面図を載せておいたが、ちょうど横に赤い線が入っている、まさに私達今この面を掘り下げているような状態。当然、明治以降、石垣は

解体されているが、地下である、この赤い線よりも下の部分が残っている状態を確認しているので、この状態から石垣の規模、それから正確な位置というものを把握して、これから専門家の先生方の御意見を伺いながら、どの程度の復元、再現ができるのかというところを検討してまいりたい。

この冠塚台石垣周辺も含めてだが、旧市民会館の造成の時に大きく土を動かしているような状況もあり、武者溜りの整備についてはまだまだもう少し発掘調査を進めていきながらデータを取っていかなければならない部分がある。

先ほどのスケジュールの通り、来年の1月末ぐらいをめどに、しっかりと答えを出して、整備計画の方を反映させていくということ、それから発掘調査の終了後だが、(5)の整備事業の今後のスケジュールという所を御覧ください。

今年度、来年の1月から車両等の解体用の車両になるが、その通路の設置工事に着手する。これについては、現在、その設置ルートについて文化庁と協議をしているところだが、大雑把に申し上げると、今発掘調査をしているエリアから北側へ向かって、三好米熊先生の胸像の背中への道を北上するような形で山際勝三郎先生の銅像のすぐ南側から博物館の方に少し迂回をして、テニスコートの中を通過して、今の北観光駐車場の料金ゲートの横のところに出てくるルートを設置するというので、文化庁とは協議をしている。イメージからすると博物館の別館、旧山本鼎記念館と山際勝三郎先生の銅像の間をダンプなり、重機が通っていくような形を想定している。テニスコートの廃止がおおむね12月ということで設定しているが、テニスコートが廃止された後、テニスコートの中を通過して外へ出ていくようなルートということで、現在は考えている。

この設置工事が済んだ段階で千本桜まつりが来年度終了したところで、市民会館の建物の解体工事の方に入っていきたいというふうに現状では考えている。

スケジュール感としては以上となる。今後、発掘調査の進捗状況も含めて随時報告をしてまいりたい。

それから資料の3枚目の3番について、櫓跡地のところを御覧いただきたい。

こちらについては遺構の現況確認ということで、従前から取り組んでいるが、すでに平成6年から7年度に一度発掘調査を櫓跡については済ませているが、そのときの調査で不明確ということで保留になっていた鬼門除けのところの櫓の2棟ある櫓だが、その櫓の大黒柱、心柱と私達は呼んでいるが、その大黒柱の礎石の位置を正確に把握するというので、昨年度から調査の方は継続して行っている。

今年度の調査については、12月から3月までの間ということで予定をしているが、

特に、今回鬼門除け櫓、2棟あったうちの北側の櫓の礎石の位置というものをしっかり今年度確認をして、将来の櫓の復元に備えたデータを正確に取っておきたいということで計画をしている。

3枚目の資料のところの(4)を御覧ください。進捗状況と今後の予定というところだが、今年度、その鬼門除け櫓2と仮に呼んでいるが、その㊸のところの櫓跡については、先ほど申し上げた通り大黒柱の礎石の正確な位置等を確認をするということ、こんなことを今年度の一番の課題にしている。

もうひとつ、野球場側の本丸の隅のところにも櫓が1棟あったが、そちらについても、平成6年度から7年度にかけて調査が済んでいるが、こちらについても、当時、はっきりとわからなかった堀際の壁の位置、そういったものについても1回発掘調査をすることで、再度検出にチャレンジしてみたいというふうに考えている。計画としては、土塁の上にあった櫓の一番北側にあった2棟ということになるかと思うが、1番最後のページの第4図の真ん中に絵図を示しているが、そのうちの㊸と㊹を今年度の発掘調査の中でしっかりと痕跡等を探していきたいと考えている。

昨年度実施をした㊸のところの鬼門除け櫓2棟だが、こちらについては、既に大黒柱の位置等について正確に把握することに成功した。昨年度の調査の中でということだが、1番下の写真のところで石がたくさん並んでいる状態の写真を観覧いただきたいが、この写真の真ん中のところに赤いシミのようなものが見える場所があるかと思う。最初はこれが何なのかということが非常に発掘調査をしていてわからなかった点だが、発掘調査を進めていく中で、上田城のお城が載っている上田泥流層という崖が皆さん御存知だと思うが、その崖の中に含まれている軽石をあえてこの基礎の中に混ぜているというようなことが推測できるというのが途中経過である。なんでこんな石を混ぜるのかということだがこの写真で御覧いただいてちょっと感じていただければと思うが、軽石がゆえに重いものによって潰れてる状態、粉々になってる状態でこの赤いシミのように写真に写っているということになる。どうもあえてその脆く、崩れる石を混ぜることで、固いその礎石の下に敷く石同士の固着性というか、粘着性というか、そんなようなところをこの石が果たしているのではないかということも石垣の専門家の先生とは今話しているところだが、なにぶん上田泥流層の上に載っているお城というのが、おそらく日本では上田城だけしかないので、このやり方というのは全国的にもあまり例がないというふうに聞いている。

上田城の仙石忠政さんが行った復興工事の特徴のひとつとして捉えられるとすれば、今後の保存整備事業の中でこういった部分を積極的に皆さんに発信をすることで、

上田城の学術的価値というか、魅力みたいなものを皆さんに紹介できていくのではないかとということで今詳細については検討中である。

ちなみに、先ほど御紹介をした冠塚台石垣の一番下の根固めのところにも同じようにこの上田泥流層の軽石をあえて混ぜているような痕跡が確認できているので、先ほど申し上げた通り、仙石さんの工事の1番の特徴というところで加えられているとすれば、非常に面白い成果だったかなと感じている。こういった発掘調査の現況であるとか、あるいは今後のその関連したイベント等のそういったスケジュール感、そのような発信については、この4月から櫓復元推進室の方で、X、旧Twitterですね、Xのポストという形で毎日1回は必ず上田城関係の発信をしていこうということで現在取り組んでいるところ。

教育委員の皆様も御興味があれば、上田城復元プロジェクトというアカウント名でXを投稿しているので、またそんなところで現況等も掴んでいただければと思う。

酒井教育長

ただいまの件について教育委員の皆様から御意見あるか。

大久保委員

今、本当にわくわくしながら説明を聞かせていただいた。軽石が土台固めとして使われている可能性だとか、そういったことをお聞きしながら、新たな発見だとか、発掘の細かい進捗状況を短いスパンで発信していただきたいなということを申し上げたいと思っていた。Xで1日1回必ず更新しているということもお聞きして、ありがとうございます、是非そういったことを広報うえだなど、さまざまな媒体で広く告知していただき、1人でも多くの市民の皆さんと、進捗の様子や今私が感じたような期待感みたいなものが共有できたらと思う。

Xは私も拝見させていただきたいと思う。

安達教育長職務代理者

はい、まったくの素人で教えて欲しい。今の泥流の軽石があえてってこと、その周りにいくらでもあるわけで、たまたまゴロゴロっと集まったのではなくて、あえてそこに集めていたんだという。素人が考えるとすごいゴロゴロあるんだからたまたまそこに加えたんだよみたいにとっちゃうと思うが、あえてそこに礎石の下に使ったというのは、どうしてわかるのか教えて欲しい。

和根崎政策幹

すみません。私の説明がちょっと不足して申し訳なかったが、今回発掘調査をした櫓の1番の基礎が作られているところは、よそから粘土を持ってきて積み上げた土塁の上である。だいたい2軒ぐらいの高さ、3.6mぐらいだと思うが、上田泥流層が大体4mとか、特に上の段だともっと距離があるような状況の中で櫓の基礎を作っている状態。そのため、通常であれば混じることがない高さであるということ、あと冠塚台石垣のところもあえて石垣を積むところによそから土を持ってきて、粘土みたいなものを敷いて、基礎を作ったりしているということもあって、今回、私達も実際に尼が淵の崖の下に行って、現状でもかなり拾える状態がある。恐らく、こういう状態が仙石さんがお城を直していた時にもあるとすれば、まさにそのあんまり例えがよくないかもしれないが、地産地消というかそのような感覚の中で石垣の石は太郎山から石材については千曲川からもかなりそういったものを利用してお城を作っていたということであれば、仙石さんが小諸から来てわずか2年目でこの工事を始めたので、木材にしてもかなり苦労されているような雰囲気が残っている。そのような苦労をした上田城の築造だということを今回の発掘調査である程度裏付けられることができれば、仙石さんに対する見方も変わってくるだろうし、真田に限らずそういう歴代の藩主の業績というか、そんなところにも目を向けていただくきっかけになればありがたいと思っている。

大久保委員

軽石を置いたということについて、重さで潰れることを前提に軽石入れたということは、つまり沈む分も計算して量を入れたということか。

和根崎政策幹

なかなかその辺は難しいところもあると思う。当然沈み込む分というのは想定はしていると思うが、特に櫓の場合は、真ん中の大黒柱だけでほとんどの重さを支えるような構造をうちの場合にはしている。壁のところにも補助の柱が、まさにあのような感じに入っているのだが、そちらにも根固めは入っているが、そちらもある程度、上田泥流層の軽石を入れている。大久保委員からの御指摘の部分というのが、今後、私達の文系じゃなくて、理系の土木に強い人達の意見をちょっとお伺いしながら果たして意図的にそういうことを狙って入れたのか、それとも意図的に入れてはいるけれども、ただ単に石材が足りなくて入れたのかなども含めていろんな先生方の意見が戦わ

れる場所になるかなと考えている。

(2)戦争遺跡を活用した平和学習等の実施について（生涯学習・文化財課）

○資料4により上原生涯学習文化財課長説明

私ども生涯学習文化財課では、市内に残されている戦争遺跡を戦争の記憶を今に伝え、平和の尊さを後世に継承していくための貴重な遺跡と捉え、歴史の証言者であるこれらの戦争遺跡を身近な教材として平和学習に生かすとともに、市内の残された戦争遺跡を広く知っていただくため、説明看板の設置を進めている。

令和5年度においては、仁古田飛行機製造地製造地下工場跡の説明看板について既存のものを改修し、新たなものに設置をしてきているが、この機会を捉えて平和の学びを深める学習機会を設け、後世の残す継承していくための貴重な遺跡であることの説明看板設置の趣旨を学習会と環境整備を通して住民の皆さんと共有し、その意識の高揚を図りたいとして本事業を計画している。

期日については、7月27日、暑い時期ではあるが、8月に原爆の日、終戦の日を控えており、この全体の取組としてこの日程を選択している。当日は、学習会に引き続いて環境整備の作業を予定している。

今回の取組においては、戦争遺跡が所在する川西地域の皆さんに参加していただきたいと考えており、特に川西地域では、まちづくり住民組織「川西まちづくり委員会」の部会において、川西地区の文化財を自分達の足で歩いて地域の皆さんに紹介しようという計画のもとに、地域文化財フィールドワークを行っている。この仁古田飛行機製造地下工場跡についても取り上げていただき、学習に取り組まれている。この取組の相乗効果を狙いながら、川西地域と連携し、広報ボランティア募集協力依頼をしながら取り組んでまいりたい。

そのほかとして、最近の説明看板の活用事例を掲載している。令和4年度に設置した遊佐准尉自決の地の説明看板を設置したが、これを契機に既存の松脂採取痕説明看板とセットでの塩田公民館の講座や地元自治会市民グループにおける平和を学ぶ機会に活用いただいている。私どもとしても、引き続き、こちらの説明看板設置の取組とともに、この看板を活用した地域での学びの学習事業、そんな地域の学習活動の促進支援に取り組んでまいりたいと考えている。

酒井教育長

ただいまの件について、教育委員の皆様から御意見あるか。

大久保委員

とてもいいイベントというか学習会だと思うが、テーマが「工事のころのお話」とあるが、こちらの講師の竹内さんという方は実際に飛行機製造地下工場の建設に携わった方か。

上原生涯学習文化財課長

竹内さんは地元の方で、小学校の頃にこの時期を地元で生活されていて、その兵隊さんのお葬式があったとか、兵隊さんが近くの家で宿舎を使っていたなど、そういう当時のことをよく覚えていて、そんなことも伝えていきたいということで地域活動されている。そのため、地元の方達にその当時の話をこんな形でもお伝えをさせていただいて、なおかつ、地下壕もこれから保存していきましょうというところの共有を図るような、と思っており、この竹内さんをお願いしている。

大久保委員

おいつつぐらいの方か。

上原生涯学習文化財課長

高齢で80歳を超えた方である。

大久保委員

戦争その当時の記憶を持たれる方は、今後どんどん少なくなっていくのではないかなと思っていて、そういった方から直接お話を聞く機会はとても貴重だと思う。お話の内容を記録に残していくようなことも大切かと思うので、検討していただきたい。

上原生涯学習文化財課長

先ほど御説明差し上げたが、川西まちづくり委員会でこのような冊子も発行しながら、地元の文化財を皆さん、地域の方に周知しているので、教育委員会がやるとか、こういったことを一緒になってこういうところで地域に残していってもらうのかということ、また連携を図りながら検討してまいりたい。

酒井教育長

広報活動があるということでよろしいか。

安達教育長職務代理者

大久保委員が言われたが、趣旨・経過の下から2行目の何かそこのこれをぜひ保存をして、後世に伝えていきたいという地域の方の思いから、こういうふうに広がって、それが教育委員会でこういうふうに取り上げてくださるといのはとってもいい流れだというふうに、そんなこと言ったら怒られるが、先ほどのともしびとここは全然違っていいなと思う。

酒井教育長

そのほか御意見よろしいか。

報告事項については事務局からの説明は以上となる。

(3) から (6) までについて説明はないが、委員の皆様から御意見や御質問等あるか。よろしいか。

そのほか、事務局から連絡等あるか。

久保田政策幹

本日、お手元にお配りさせていただいた「犯罪被害者等支援条例制定記念講演会」という資料を御覧いただきたい。

今年の4月1日より施行された「犯罪被害者等支援条例」を記念して、市民の皆様は犯罪に遭われた方やその家族の置かれている状況、また支援の必要性について御理解を深めていただくことを目的に、講演会を人権共生課と共催で開催する。

開催日は、6月29日土曜日で、場所は西部公民館である。事前申込制となっているが、当日参加も可能であるので、お時間があればぜひ御参加いただきたい。

酒井教育長

そのほか、事務局からあるか。

なければ、以上で、6月の定例会を終了いたします。